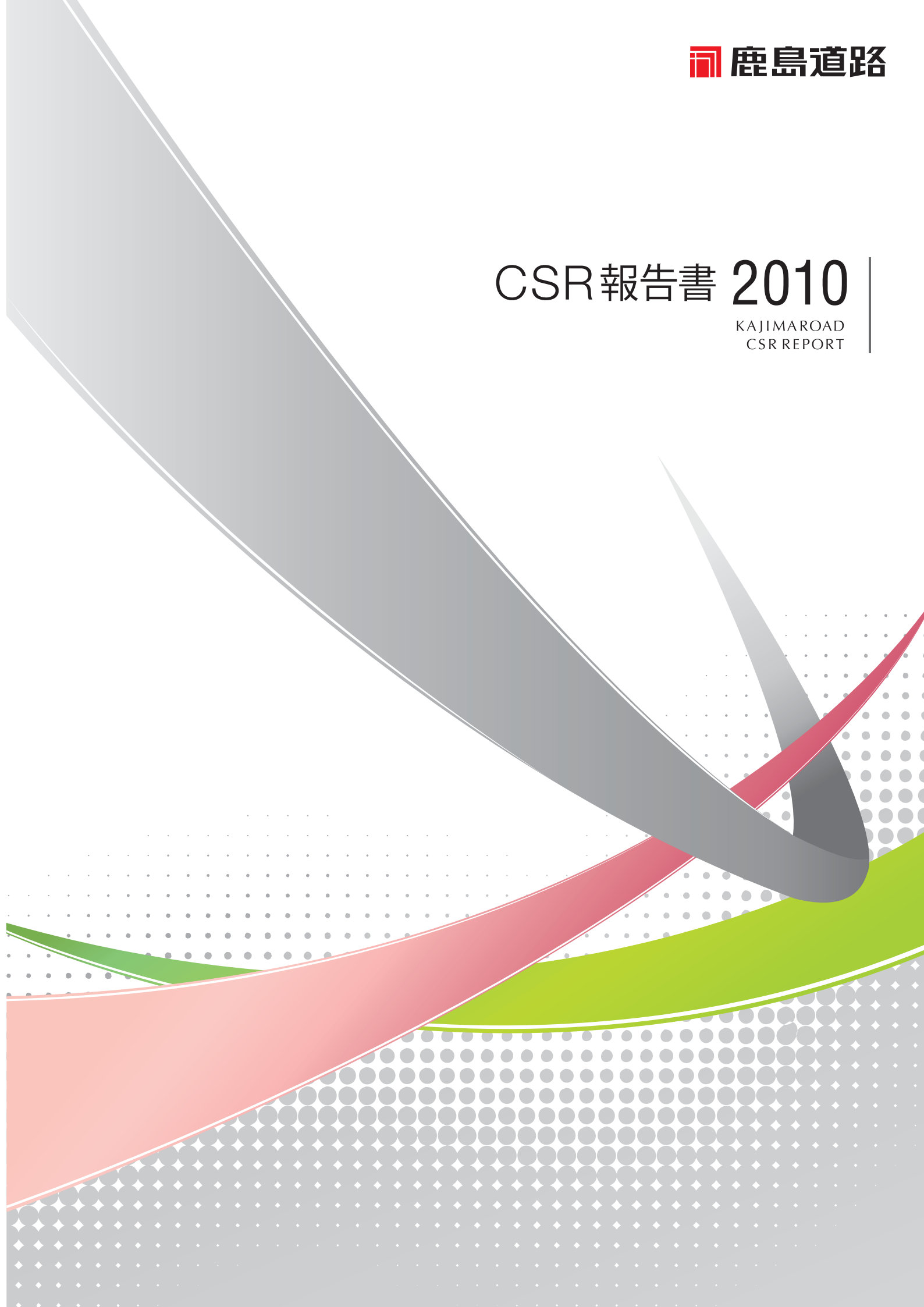


CSR報告書 2010

KAJIMAROAD
CSR REPORT



contents

03	社長メッセージ
04	鹿島道路の役割と責任
06	ものづくりを支える研究・技術開発
08	鹿島グループが実践するCSR
10	5つの基本姿勢 コンプライアンスの徹底
12	5つの基本姿勢 働くことに誇りを持てる会社
13	5つの基本姿勢 地域社会との共生
14	5つの基本姿勢 地球環境保全と環境創造
16	5つの基本姿勢 ステークホルダーとのコミュニケーション
18	会社データ
19	第三者意見

Make a new value for the future.

社長メッセージ



代表取締役社長

滝田 裕久

鹿島道路の主たる事業は舗装工事です。一般的に舗装といえば、まず道路を連想される方が多いと思います。道路は、時代を超えて人々の生活に密接に係わり、社会や経済の発展に大きな役割を果たしてきました。また、舗装は、道路だけではなく、空港や港湾、橋梁やダムなど、社会や人々の生活を支える重要なインフラに広く採用されています。

こうした社会資本は、長い期間にわたって安全・安心であることが大前提となるため、鹿島道路は特に品質を第一に考え、お客さまとの信頼関係を大切にしながら、50年余にわたり事業活動を行ってまいりました。鹿島道路では豊富な実績と経験をもとに磨いてきた高度な技術力をもって、良質で環境にやさしいサービスを提供し、多様な社会要請に応えていくことがCSRの原点であると考えています。

今後も建設業界を代表する鹿島グループの一員として、高い企業倫理と強い使命感を併せ持つ誠実な企業であることを目指し、社員一同努力してまいりますので、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

MISSION

新しい価値創造に挑戦し、
人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献する

VISION

道からはじまる未来創造企業

鹿島道路の役割と責任

今も昔も、道は人々の生活にとって大切なものです。

道に関する歴史をみると、人々が農耕をはじめ、集団で定住するようになると、収穫物の交換という習慣が生まれ、人と物の移動が始まり道ができました。やがて、西洋では中央集権的な国家が生まれ、領域の統一支配のため、道路網が発達します。軍隊の移動を考え、紀元前300年ごろから石畳の舗装技術が生まれました。一方、日本で道路建設が始まったのは、6世紀の奈良盆地といわれます。直線的な道路が計画的に整備されたのは、7世紀からで、全国に東海・東山・北陸・山陰・山陽・南海・西海の七道の駅路が開かれました。また、8世紀後期に造営された平安京には、東西南北に走る大路・小路があり、朱雀門から羅城門まで延びるメインストリート「朱雀大路」の幅員は84mもあったといえます。その後、日本の道路は、軍事防衛的な意味から統治者により、せいぜい人が通れる程度の幅に縮小され、江戸時代の街道は2間(3.6m)程度となりました。

しかし、戦後、アメリカ陸軍技術部隊により近代的技術がもたらされ、日本の道路は大きく発展していくことになります。

鹿島道路は半世紀にわたり、現代の道づくりにかせない「舗装」を主な仕事として社会に貢献してきました。これまで培った豊富な経験や技術をもとに新しい分野にも積極的に挑戦し、これからも人々が快適に暮らせる環境づくりに努めていきたいと考えています。

参考文献：「明治工業史土木篇」、「古代道路」（木下良編）、「列島の古代史 人と物の移動」（吉村武彦 編）

鹿島道路の 施工実績

'60



1959年
富田林舗装工事

1958年 芽吹大橋舗装工事
1962年 若戸大橋舗装工事

'70



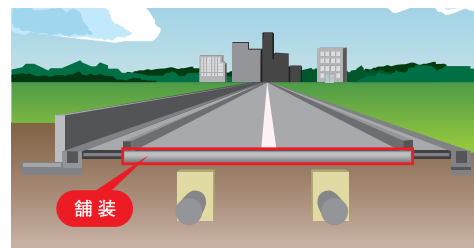
1968年
東名高速道路厚木～大和間舗装工事

1973年 沼原アスファルト遮水壁その1工事
1979年 九州自動車道松橋舗装工事

I 舗装ってなに？

舗装とは、道路の表面をアスファルトやコンクリート、あるいはブロック等によって仕上げることです。

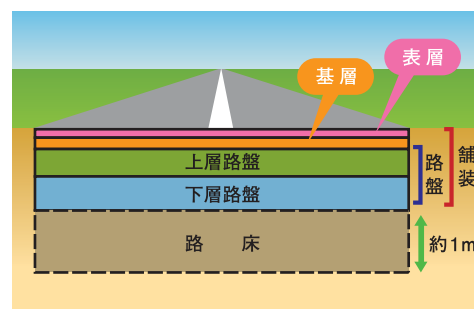
舗装することで、雨などの水で道路がぬかるんだり、風などで砂ぼこりが舞うのを防ぎます。また、人や車が安全で快適に通行できる道路とすることや、周囲の雰囲気に合った道路をつくることで、景色をグレードアップさせることができます。



I 舗装はどうなっているの？

舗装がどうなっているのか、アスファルト舗装を例に説明します。

アスファルト舗装は、表層、基層と呼ばれるアスファルトの層と、路盤と呼ばれる碎石の層により構成されています。一般に路盤は、上層路盤と下層路盤とに分けてつくられます。また、路盤の下にある土の厚さ約1mの部分出路床と呼びます。路床は、自然の土で、ここが弱いと良い道路はつくれません。そのため、必要に応じて路床を強化する事もあり、これを安定処理と呼びます。今の道は、基本的にこのような構造をしています。



'80



1982年 東北自動車道松尾舗装工事

1987年 沖縄自動車道沖縄舗装工事

1988年 北陸自動車道親不知舗装工事

'90



1993年 東京国際空港エプロン舗装等工事(その2)

1990年 山陽自動車道徳山西舗装工事

1998年 東京湾横断道路連絡道
湾横木更津舗装工事

'00



1999年 来島大橋舗装工事

2006年 越後川口トンネル小千谷間舗装
災害復旧工事

2010年 東京国際空港D滑走路舗装工事

ものづくりを支える研究・技術開発

多機能路面測定車

鹿島道路では、一般の乗用車でも簡便に路面状態を調査・記録できる多機能路面測定車を開発しました。多機能路面測定車は、路面の状態をユーザーの立場から評価するもので、これを用いれば、車両の通行を妨げることなく迅速に道路舗装の凹凸などの損傷具合を把握できます。道路管理者をはじめ、多くの方々に関心を持っていただくとともに、第28回日本道路会議（2009年）にて優秀論文賞を受賞するなど、高い評価を得ています。

一般に道路舗装の調査では、目視観察などのために交通規制が必要となることや、大型の特殊な測定車両を用いることなど、多大な労力、時間そして費用がかかるという問題がありました。

一方、多機能路面測定車は一般の乗用車にビデオカメラ、加速度計および騒音計を搭載して、走行しながら路面の状態を記録しますので、交通規制は不要で簡便かつ安価です。

路面の段差やひび割れは乗り心地などに影響し、通常これらの箇所では加速度の変動が大きくなります。また、路面が傷むと、沿道環境に負荷を与えかねない騒音がタイヤの通過時に生じることがあります。このように測定で得られる加速度や音のデータから、道路の傷んでいる箇所や程度がわかります。多機能路面測定車によって得られた情報を有効に活用すれば、適切な方法でタイムリーに道路を直すことができ、

よい状態に保つことができます。

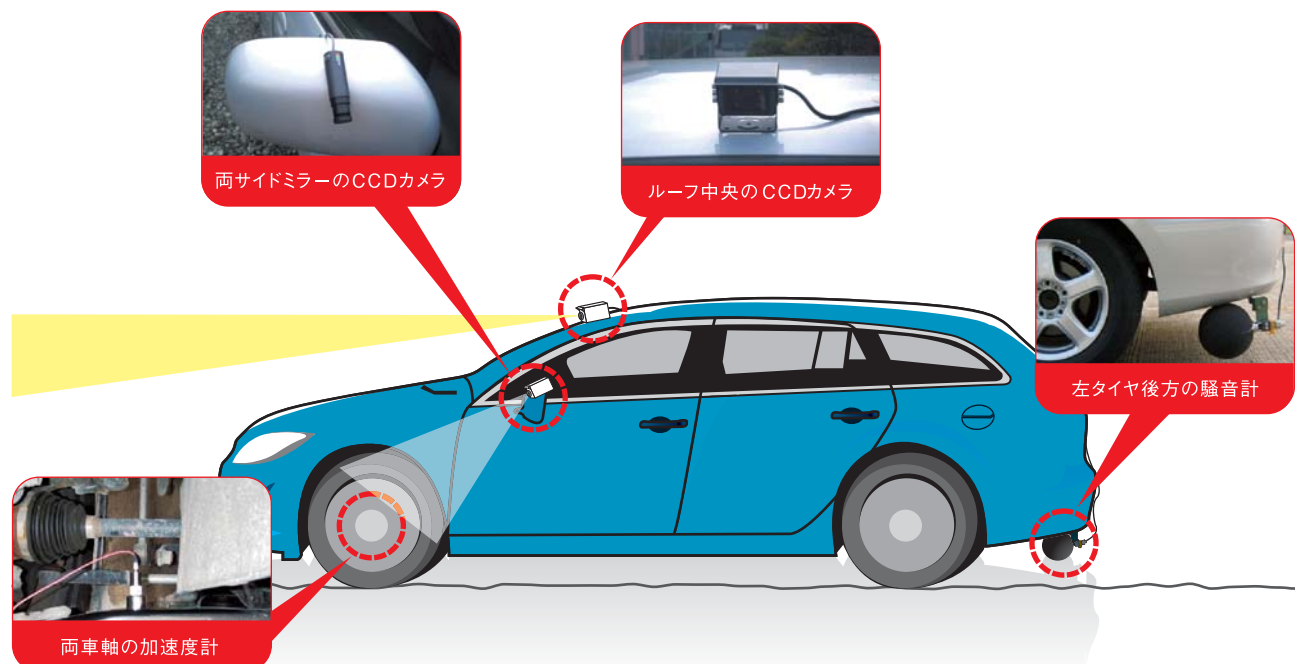
また、道路づくりを使命としている鹿島道路にとって、多機能路面測定車は、道路の出来栄が乗り心地にどのように影響するかを知るための重要なデータ収集ツールとなっています。

多機能路面測定車を広く普及させ、我々自身の施工技術の向上を図るとともに、今後とも道路利用者や沿道住民の皆様喜んでいただける道路づくりに努めます。

収録データの再生例



多機能路面測定車の仕組み



燃料油に汚染された土壌・地下水を対象とした

改良型バイオスパーキング工法

鹿島道路では、私たちの身近に存在する、土壌や地下水の油汚染問題の対策技術として、ドラムソイル工法、ソイルストーン工法、気泡連行法、バイオスティミュレーションなど、豊富な浄化技術を取り揃えています。

ここでは、住宅密集地のガソリンスタンド跡地における、ベンゼンおよび油分による土壌・地下水汚染に対して、現位置浄化工法であるバイオスパーキング工法を適用し効率的に浄化した事例を紹介します。

この現場は、数十年前よりガソリンスタンドとして利用されていましたが、ガソリンスタンドの操業中に何らかの原因により燃料油（ガソリン）が地下に浸透し、ガソリン成分であるベンゼンおよび油分によって土壌・地下水の汚染が発生した土地でした。

当初は掘削除去工法により浄化を進めていましたが、周辺に戸建て住宅や低層マンションが立ち並ぶ工事環境であったことから、掘削時に発生する騒音や振動等に対して近隣住民からのクレームが生じました。

このため、掘削除去に代わるベンゼンや油分に対する様々な浄化工法を比較検討し、現位置浄化工法であるバイオスパーキング（バイオスティミュレーションとエアースパーキングを

組み合わせた工法）を住宅密集地でも適用できるように改良した”改良型バイオスパーキング工法”を採用しました。

これまで住宅密集地にバイオスパーキング工法を適用した事例では、周辺環境に対する騒音やエア注入によるガス拡散などの問題が報告されていました。

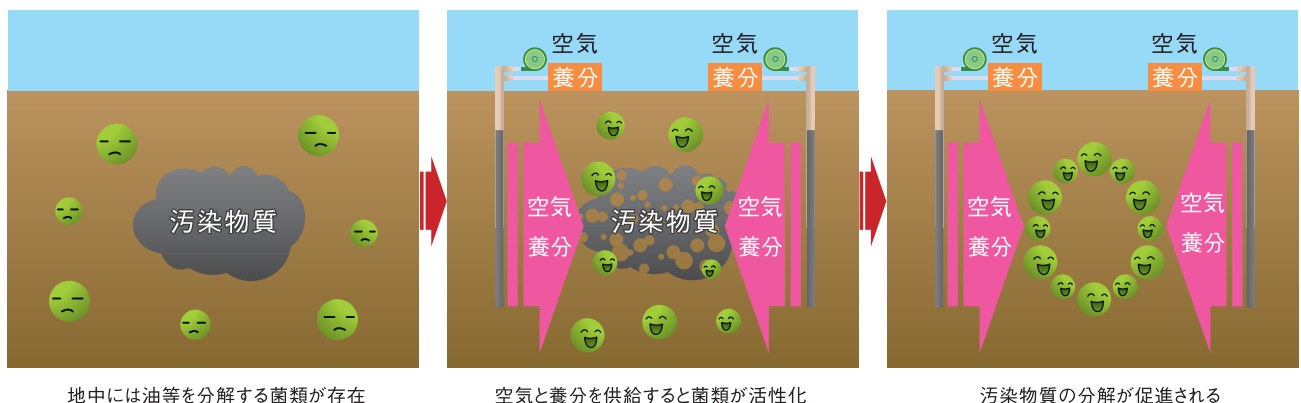
このため、この現場での土壌浄化にあたっては、これらの問題点を解消した改良型バイオスパーキング工法を採用することにより、浄化作業による周辺環境への支障を発生させることなく、安全かつ効率的に土壌浄化を完了しました。

これからも鹿島道路の豊富な土壌浄化技術とノウハウを活かし、皆様の生活環境の改善に役立って行きたいと考えています。



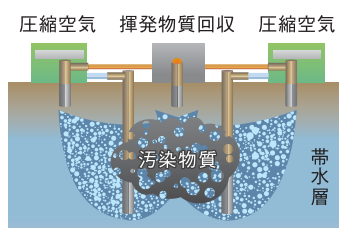
バイオスティミュレーション

地中に生息している、汚染を分解する微生物に、空気と養分を供給することで活性化し、汚染物質の分解を浄化する方法

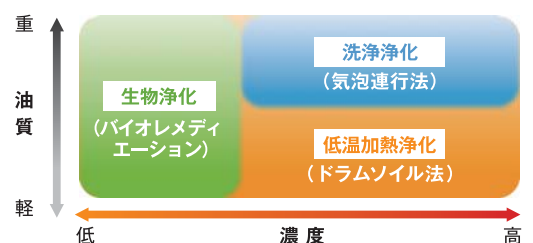


エアースパーキング工法

VOCs（揮発性有機化合物）の持つ揮発特性を利用し、地盤中の帯水層にエアを注入することで、汚染物質の気化を促進させ、汚染物質を土壌・地下水から分離回収する



主な油汚染土壌化技術のマトリックス図



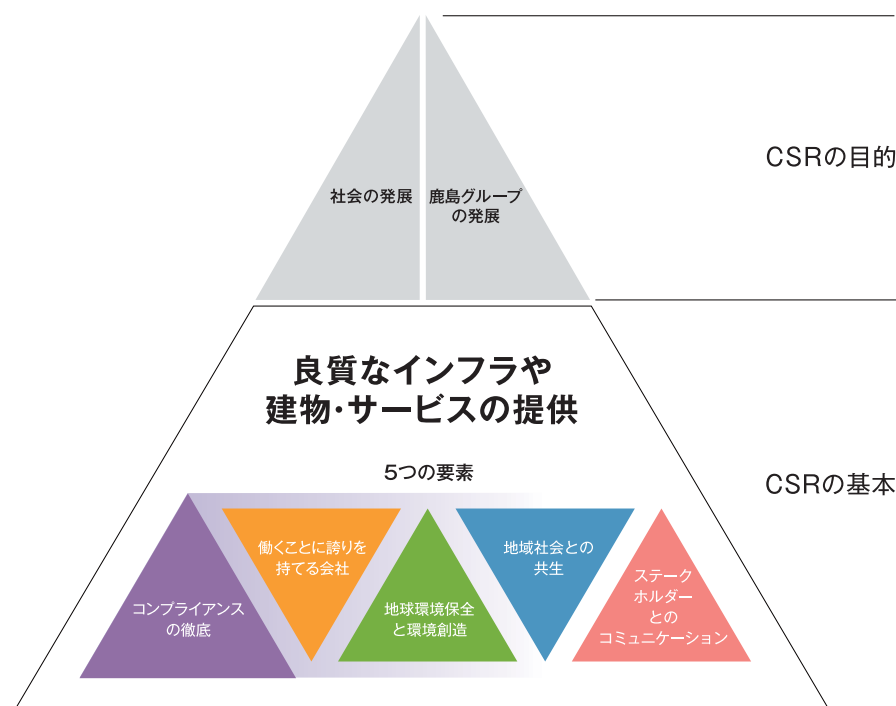
鹿島グループが実践するCSR

建設業の成果は長い期間にわたって直接社会や人々の生活を支えるものであり、社会や顧客の永続的な信頼のもとに、社会の持続的な向上と建設業、ひいては当社の安定的な発展を共存させていくことが鹿島建設のCSRの実践で目指すものです。

建設業の仕事は、公共性が高くプロセスから結果に至るまで常に目に見えるかたちで表れ、社会や顧客との共生と位置付けられるとともに、時代を超えて次の世代やその先の時代まで責任を担っています。

このため何よりもまず高い企業倫理と強い使命感に貫かれた誠実な企業であるとともに、たゆまぬ研鑽による高度な技術力をもとに、良質なインフラや建物・サービスを提供し続け、社会への貢献と、顧客の利便・快適・安心の充足を通じて永続的な評価を受けることが、鹿島建設のCSRの原点です。

鹿島グループのCSRの枠組み



鹿島道路のCSR活動

鹿島道路の企業理念である「新しい価値創造に挑戦し、人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献する」のもと、公正で開かれた企業を目指し、良質かつ適正な価格で社会資本の整備を担っていく事をCSRの基本としています。

鹿島道路のCSR活動方針

- (1)「お客様本位」と「品質本位」を第一義とする
- (2)「鹿島グループ 企業行動規範」の順守をすべての企業活動の大前提とする

5つの基本要素

コンプライアンスの徹底

建設業界が「貢献度は高いが、好感度は低い」との評価を受けてきたことは事実ですが、一方で長い年月、社会や人の生活を支える仕事の責任の重さを考える時、企業への信頼の大切さを改めて認識しています。コンプライアンスの徹底とは、諸法令の遵守は当然として、さらに高い企業倫理に貫かれた誠実な企業を社員一人ひとりが目指すことです。

2009年度 主な実績

- ガバナンスの基本方針に則った経営を展開
- 情報セキュリティをはじめコンプライアンスの教育を通して社員の行動に反映させた

2010年度目標

- グループ一体となったガバナンスを徹底する
- コンプライアンス・リスクマネジメントを徹底する

働くことに誇りを持てる会社

建設業は、多くの職種の協力会社の人々と一体となって工事の完成を目指して努力しており、まさに一人ひとりの能力が財産と言えます。多くの人々が働く現場が、安全で相互に信頼し合え、かつ私たちの仕事が社会を支えているとの使命感に満ちた「働きやすく誇りある」現場であるよう、環境の整備と意識の啓発に努めています。

2009年度 主な実績

- OJTとOffJTを組合わせた社員の育成を継続した
- ワーク・ライフ・バランスの推進により現場異動時休暇の取得率上昇
- 現場での災害発生件数が前年度比約40%減少

2010年度目標

- 技術者の育成を継続する
- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 死亡・重篤・重大災害“ゼロ”

地球環境保全と環境創造

建設業は資源多消費産業であり、自然環境に手を加えることが多い産業です。環境に対しては常に感度が高く、礼儀正しい企業でありたいと思っています。

地球環境の保全は「次世代への責務」と考え、顧客への前向きな企画提案とともに、日々の事業活動における環境負荷の低減に注力していきます。

2009年度 主な実績

- 中期目標に沿って重点課題ごとに展開した
- 第1回生物多様性日本アワード受賞

2010年度目標

- 中期目標2年目として、重点4課題の目標を達成する

地域社会との共生

建設業は、工事の近隣を含む地域社会の理解と協力なしには円滑な事業遂行ができません。なお、自然災害大国の日本において、自然災害発生時における主体的役割や、備えも建設業に期待されるCSR活動の例です。

2009年度 主な実績

- 地域社会の一員としてコミュニケーションの場を設けた

2010年度目標

- ステークホルダーとの良好な関係を構築する
- 次世代に向けて建設業の魅力を発信する

ステークホルダーとのコミュニケーション

建設業界はこれまで社会的使命や日々の事業活動について、必ずしも積極的に社会に対して発信してこなかった部分があります。誠実な情報発信もまた企業への信頼の基本であることをふまえ、社会への関心と貢献に関してもっと積極的かつ熱心に情報発信を行い、多様なステークホルダーとのコミュニケーションを図っていきます。

2009年度 主な実績

- 社内で2回「CSR報告書を読む会」を開催し、全社員アンケート実施
- 各方面のステークホルダー向けの確に情報を発信するためHPを改編

2010年度目標

- 社内でCSR報告書を読む会の開催と社員向けアンケートを継続する
- 各方面のステークホルダーに随時情報発信を行う

コンプライアンスの徹底

Ⅰ コンプライアンスの徹底

信頼される企業グループであるために

企業には、清く、正しく行動することが、これまで以上に強く求められており、悪いことや失敗がおこらないようしくみづくりが重要になっています。また同時に、自社の行動や内容が外部からよく見える（透明性）、よく伝える（情報開示、説明責任）取り組みも必要となっています。鹿島道路は、全てのステークホルダーの皆様信頼される企業であり続けるため、鹿島グループの一員としてコンプライアンスを徹底し、リスクを管理しながら業務を適正に遂行するための内部統制システムの整備を推進しています。

コンプライアンス・マニュアルの制定

悪いことをしないしくみの一つが、企業行動規範を作り、全役員・社員に理解と実践させることです。

鹿島道路では、鹿島グループ企業行動規範を採択し全役員・社員に鹿島グループ企業行動規範の記載された小冊子を配布し、2010年初頭には実践の手引きを改訂するとともに、通達を渡し、イントラにも掲載してコンプライアンス意識の徹底を図りました。

企業行動規範の浸透

鹿島道路では、毎年1回鹿島建設からのe-ラーニングによる研修で、「鹿島グループ 企業行動規範」がどのように理解され、浸透しているかを確認しています。

2010年は、1,492名が受講を完了しています。
今後も定期的実施する予定です。

談合防止体制の運用の強化

鹿島道路では、2007年8月に談合防止体制を整備し、公共工事などにおける入札プロセスの明確化、各段階での決定経緯の記録・保管を義務付けるとともに、社外会合の参加にも一定の制限を設けています。この遵守状況をチェックし、法令違反を疑われる行為を行っていないことを確認するとともに、毎年4月1日付で営業に携わる役員・社員から談合を行わないことの誓約書の提出を求めています。

また、毎年鹿島建設で主催する独占禁止法研修会にも営業担当者を対象として出席させて法令遵守の意識の啓発を図っています。

協力会社との適切な取引

建設業では、施主から工事を直接発注される元請会社が品質や工程を確保するために工事を管理し、専門職である協力会社に各工程・作業を発注して工事を施工をします。

適正な施工体制のもとで運営すること、協力会社との契約締結・履行を徹底し、信頼関係を持つことが大切です。取引上の地位を不当に利用し、通常必要と認められる原価に満たない金額で協力会社と請負契約を締結することや、下請代金の支払を遅らしたり、一般の金融機関による割引を受けることが困難と認められる手形の発行を行いません。

反社会的行為の根絶

鹿島グループ企業行動規範において、暴力団対策法等の趣旨に則り、暴力団を始めとする反社会的勢力と一切関係をもたないことを宣言しています。協力会社（数次に渡る場合を含めて）としても一切使用しません。また、「暴力団を恐れない」「暴力団に金を出さない」「暴力団を利用しない」の「3ない」を行っています。

内部通報制度の整備

鹿島道路では、役員、社員などによる法令違反や不正行為の発生（あるいはその兆候）を知った者から直接通報を受け付けるホットライン「企業倫理等通報制度」を整備しています。

また、鹿島グループとしての鹿島建設への通報制度も併せて完備しています。

情報セキュリティと企業としての信頼

鹿島道路では、顧客および取引先の信頼を得るため、個人情報をはじめとした顧客情報や、企業情報などを保護する目的で「情報セキュリティポリシー」を制定しています。

これは情報セキュリティ規程と情報セキュリティ実施要領等によって構成されています。これは社員が情報資産をどのような脅威からどのように守るかという基本的な考え方と、情報セキュリティを確保するための具体的な行動を示したものです。実際には、情報セキュリティ強化対策ハンドブックを使った対面教育やイントラを利用したe-ラーニングを通して、情報セキュリティの啓蒙教育を行っています。また、全社で定期的な情報セキュリティパトロールを実施して、その効果を確認しています。



2009年度の活動内容

2009年 5月	e-ラーニングの実施(情報セキュリティ教育)
2009年10月	情報セキュリティ規程の制定
2009年10月	情報セキュリティ実施要領の制定
2009年10月	情報セキュリティ対策行動規範の制定
2009年10月	情報セキュリティパトロールの実施(本店、支店)

内部統制への対応

会社法におけるリスク管理

リスクを把握・特定することから始まり、把握・特定したリスクを発生頻度と影響度の観点から評価した後、発生頻度と影響度の積を評価の尺度としたリスクの種類に応じた対策を講じます。また、仮にリスクが実際に発生した際には、リスクによる被害を最小限におさえる措置を講じます。

活動内容

1	業務の適性を確保するため経営リスク・事業リスクについて鹿島建設の方針に沿って実施計画書を作成している。
2	計画書に基づき実施した結果を3回／年(9月、1月、3月)監査室へ提出することになっている。
3	期末(3月)近くに実施記録を取り纏めの上、「リスク管理委員会」に諮った後、鹿島建設に提出することになっている。
4	期末(3月)に「リスク管理委員会」を開催し取締役会に諮っている。

金融商品取引法における自己点検

全社的内部統制、決算・財務報告プロセス、業務プロセス、IT全般統制、IT業務処理統制の整備・運用状況について自己点検を実施して評価を行い、不備事項が発見された場合は、改善確認と再評価を実施します。

活動内容

1	監査室が各支店の建設事業の業務プロセスについて自己点検結果に基づき評価をしている。
2	鹿島建設、監査法人から金商法に関する監査を受け、結果について取締役会に諮っている。

会計業務監査の実施

支店・事業所の監査に加え、本店・子会社の会計業務監査を実施しています。(法規・社内規程・ルールの遵守度をチェック)

活動内容

期首に計画書を作成し毎月複数のグループに分け規程、ルールからの逸脱がないかどうかを監査し、社長他役員に報告書を提出している。 改善を要する点については関連部署にも報告している。

働くことに誇りを持てる会社

全社教育・研修体制の充実

少子高齢化社会の到来により、今後労働力人口が確実に減少していく中で、社員一人ひとりが、業務における自分のスキルや知識の向上に努めながら、同時に業務におけるさまざまな技能や技術を次の世代の社員へ継承していくことが、今求められる喫緊の課題であります。鹿島道路では、以上の観点から各職場におけるOJTを基本として、階層別教育や集合教育・講習会をはじめ、さまざまなOffJT教育を実施しています。また「自己啓発」についても、国家資格や大臣等認定資格及びそれに準ずる資格等の公的資格取得に掛かった受験料・登録料の援助や合格者に対する奨励金の支給を行なうなどの支援を行なっています。

奨励金や奨励金の対象となる主な公的資格一覧

(平成22年4月1日現在)

技術士	公害防止管理者
一級土木施工管理技士	労働安全コンサルタント
一級建築士	土壤環境保全士
一級建築施工管理技士	エネルギー管理士
一級建設機械施工技士	監理技術者
一級電気工事施工管理技士	建設業経理事務士一級
一級管工事施工管理技士	第一種衛生管理者
一級造園施工管理技士	宅地建物取引主任者
一級舗装施工管理技術者	情報処理技術者
測量士	VEリーダー

ワークライフバランスへの取り組み

社員一人ひとりが、仕事に対して生き甲斐や大きな充実感を持ちながら仕事をこなしていくとともに、それぞれの家庭や地域生活などにおいても、子育て期や中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる職場環境づくりがこれからますます求められていきます。

鹿島道路では、社員それぞれのライフステージに応じた各種休暇取得推進や「次世代育成支援対策推進法」に沿った行動計画を展開しながら、仕事もプライベートも充実出来るよう、社員のワークライフバランスの実現に向けて取り組んでいます。

各種休暇取得推進

年次有給休暇取得推進	GW、夏季、年末・年始休暇時に、有給休暇を組み入れ連続休暇として年給取得推進
永年勤続特別休暇	リフレッシュ休暇として、勤続満25年の社員に連続7日間(休日除く)の休暇付与

次世代育成を支援する制度

(平成22年6月30日現在)

育児休業制度	父母が共に育児休業を取得する場合、子が満1歳2ヶ月に達する日迄 各々1年間取得可
配偶者出産休暇	子供が生まれる際の父親の休暇として、3日間付与
子の看護休暇	小学校に在学するまでの子が1人であれば年5日、2人以上は年10日休暇を付与
インターンシップの推進	大学からの要請により在学生を実習生として受け入れて、就業体験機会を提供

現場で働く社員の声



関東支店 上信営業所 河野 真太郎

〔現在の業務〕

工事名：半田地区拡幅改良舗装工事
施工箇所：群馬県渋川市半田地先(前渋バイパス)
従事役職：現場代理人
施工内容：舗装工、擁壁工、排水構造物工、構造物工、撤去工、道路土工、道路付属物工

鹿島道路を選んだ理由

公益性の高い、社会に貢献できる仕事で唯一無二なものを作ったことが最大の理由です。また面接時の社員の対応が良く、社内の人間関係も心地良いものを感じた事も大きな理由の一つです。

今までで一番嬉しかったこと、良かったこと

今現在を含め、良い人間関係の中で仕事が出来ていることが、自分にとってうれしい事です。また前の国交省の工事で現場代理人(初任)の職を全うし、無事に完成検査に合格したことで大きな自信ができました。

これからの仕事に対する意気込み、抱負、想い等

一つのことにとわれることなく、士魂商才な人間になりたいと思っています。また将来において、後輩に指導できるような社員になれるよう業務に精進して参りたいと思います。



九州支店 福岡合材製造所 倉智 真奈美

〔現在の業務〕

業務内容：事務全般の他、サイロ出荷、配車の補助、持ち込みコアの受付、接客など

鹿島道路を選んだ理由

「今度出来る合材製造所で社員を募集しているから、応募しては?」と知人から勧められて入社しました。入社当時未だ建設中の事務所が次第に出来上がっていく様子を見る事ができ、今では我が子のように思えます。

今までで一番嬉しかったこと、良かったこと

本当にたくさんの人と出会うことのできる職場で、うれしい思い出がたくさんあり、順番をつけることは出来ません。また東京からのお客様から、手作りのブローチと激励の言葉をいただいたこと大変感動しました。

これからの仕事に対する意気込み、抱負、想い等

18年から今までの長い期間働いている間には、辛かった事もありますが、全て無駄な事はなかったんじゃないかと思います。これからも、何事にも手を抜かず、私にできることを精一杯やりたいと思います。

地域社会との共生

地域社会貢献

キッズISO 14000 プログラム

鹿島道路では環境教育の支援に積極的に取り組んでおり、2009年度は山梨県の中学校2校と愛知県の小学校にインストラクターを派遣しました。

キッズISO 14000プログラムとは、国際芸術技術協力機構 (ArTech) が開発し、国連大学と共同で、国内及び国際的に展開しているISOが認めた唯一の環境教育プログラムです。



不発弾発掘工事 (埼玉県)

第二次世界大戦中に米軍が落としたとみられる不発弾が発見され、鳩ヶ谷市の発注を受け関東支店が発掘工事を請け負いました。安全確保のため半径300mの範囲が避難区域として規制される中、自衛隊による撤去処理作業が無事終了しました。



国内最大級の給食センター (山形県)

山形市内の小学校52校に毎日2万2千食を供給する同センターは、東洋食品が中心となって設立した特別目的会社 (SPC) の「山形学校給食サービス」によって2024年3月まで15年間運営されます。鹿島道路ではこのPFI事業に同じく参画する山形建設とともに建設を担当しました。

地域イベントへの参加

ちびっこサッカー (北海道)

北海道営業所 (旧北海道支店) が中心となって「小学校3年生になるまでサッカー大会に出場できない」という声をきっかけに、2年生以下を対象とした「ちびっこサッカーフェスティバル」を開催しています。この大会は、2002年に札幌近郊の8チームでスタート。第8回となる2009年の大会には、道内各地から20チーム約250選手が出場しました。



もちひとまつり (新潟県)

北陸支店は中越地震の災害復旧工事に多く携わってきました。当時、長岡市小国町に構えた工事事務所には、最大で150名もの工事関係者が駐在し、昼夜を問わず活躍しました。

同支店では災害復旧活動を通して地域の人々との間に築いてきた信頼関係を現在も深めており、昨年は小国地域に伝わる以仁王 (もちひとおう) 伝説にちなんで「もちひとまつり」に参加しました。



地球環境保全と環境創造

Ⅰ オフィス環境活動の取り組みと実績

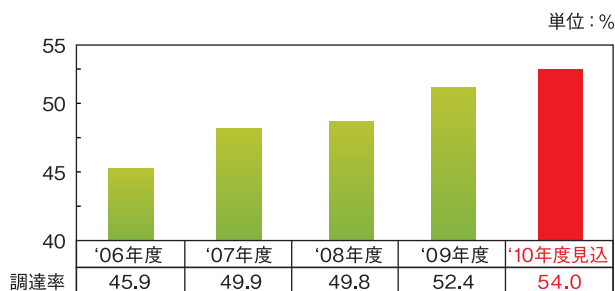
鹿島道路では、新しい価値創造に挑戦し、人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献することを企業理念としており、日常業務の中においても環境を考慮し、様々な取り組みを通じて、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ない資源の有効利用や省エネルギーに努めています。オフィスにおける省エネルギー・省資源を実行するために、鹿島道路では以下のような取り組みを行っています。

オフィスグリーン調達及び電気使用量削減

オフィスグリーン調達のルール

オフィスにおいても、環境保護活動の一環として品質や価格だけでなく、環境の事を考えた上で事務用品のグリーン購入品目を増やすよう努力しております。

グリーン調達率推移(本支店)



電気使用量削減のためのルール

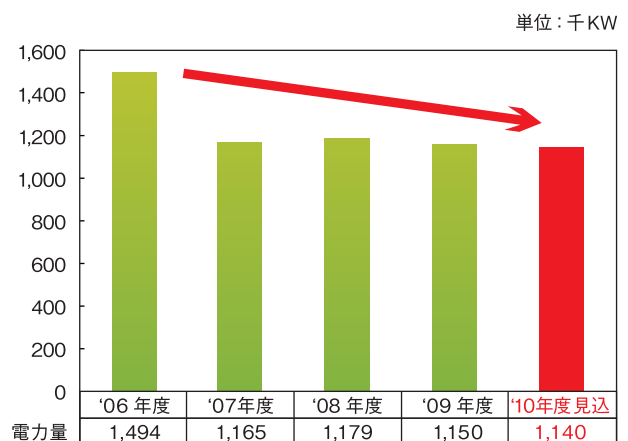
昼休み退社時の消灯

空調温度設定の固定化

未使用時OA、
シュレッダーの電源OFF

その他事業所
固有の活動

オフィス電力量の削減(本支店)



2009年度 電気量におけるCO₂の削減

130^tの節約

(2006年度 当社比)

CO₂排出係数を0.378kg.CO₂/kwhとし、34万4千kwh×0.378kg.CO₂≒130トンの削減

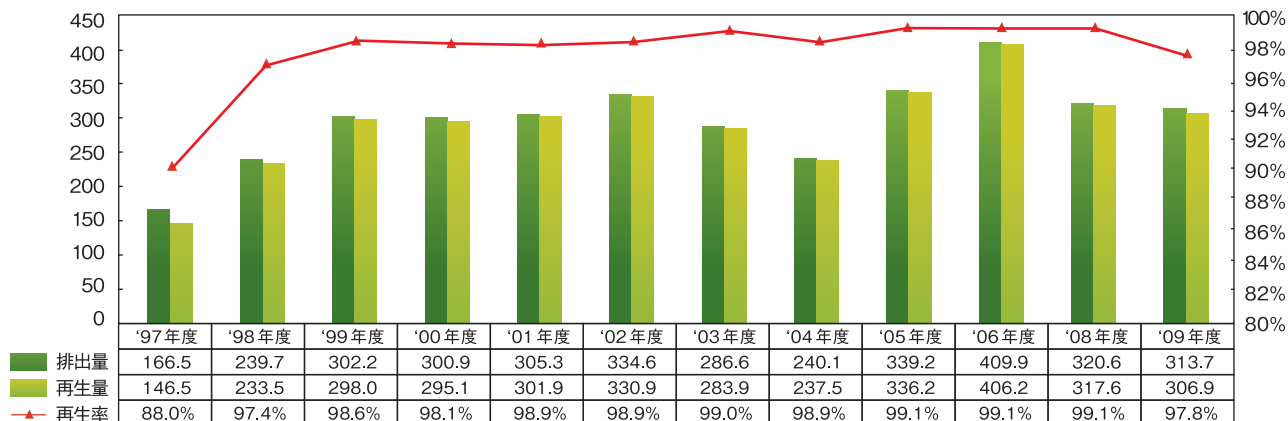
環境マネジメントシステムの目標と実績

	項目	2009年度目標	2009年度実績	評価
施工(土木)	建設廃棄物リサイクルによる環境負荷の低減 グリーン調達の推進	10.0%増 12,320千円/億円 (2006年度比)	58.0%増 17,700千円/億円 (2006年度比)	○
	地球温暖化防止への寄与 CO ₂ 発生量の削減	3.0%削減 17.0t/億円 (2006年度比)	2.7%増 18.0t/億円 (2006年度比)	×
施工(建築)	廃棄物の増加抑制 混合廃棄物の削減	5%削減 6.08t/億円 (2006年度比)	41.7%増 9.07t/億円 (2006年度比)	×
製造	再生骨材使用率の向上	5%増 38.4% (2006年度比)	5.8%増 39.2%	○
	CO ₂ 発生量の削減 製造量1t当たりのCO ₂ 発生量の削減	0.3%削減 19.05kg-CO ₂ /t (2006年度比)	1.7%増 19.44 kg-CO ₂ /t	×

産業廃棄物排出量と再資源化(再生)率

排出量と再生量

(単位:千)

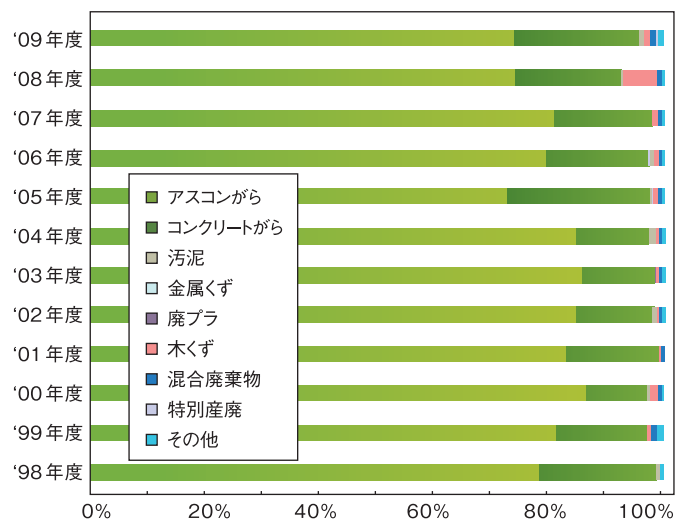


2009年度の産業廃棄物排出量は約31.4万t(上図)で、内訳はアスファルトコンクリート塊とコンクリート塊が96%弱と大半を占めています(右図)。

鹿島道路では排出する廃棄物を「少なくすること(Reduce)」、「そのまま使えるものは使うこと(Reuse)」、「手を加えてまた使えるようにすること(Recycle)」(3R)が重要と考えており、循環型社会への取り組みとして全国に中間処理施設を設け、アスコンやコンクリートのリサイクル事業を展開しています。

2009年度の再資源化(再生)率は、上記の2つに限ればほぼ100%で、産業廃棄物全量に対しても約98%と高い実績をあげています。

産業廃棄物構成



	項目	2009年度目標	2009年度実績	評価
設計	環境に配慮した設計の推進 環境提案採用件数	3件/A-JOB(15人工未満) 7件/B-JOB(15人工以上)	4.5件/A-JOB 15人工以上の設計業務なし	○ —
	環境関連技術の開発推進 2007年度からの累計完成開発件数	6件以上	6件	○
開発	オフィスにおける環境負荷の低減 グリーン調達率	1.5%増 47.6% (2006年度比) (グリーン製品調達額/総事務用品購入額)	52.4%	○
オフィス	CO ₂ 削減工法販売によるCO ₂ 削減 CO ₂ 削減量	242t/年	690t	○
営業	土壌浄化工事の受注による環境負荷の低減 土壌浄化工事受注件数	110件/年	61件	×

ステークホルダーとのコミュニケーション

2009年度開催の技術フェア

ハイウェイテクノフェア2009開催！

11月5・6日の2日間、東京ビッグサイトにおいて、「ハイウェイテクノフェア2009」が開催されました。

鹿島道路では『SFRCボンド補強工法』、『L・Lライン』を出展しました。会場には約8,400人が訪れ、過去最大の来場者数を記録しました。



建設おもしろテクノ館リニューアルオープン！

11月26日に国土交通省関東地方整備局の建設技術展示館(建設おもしろテクノ館)がリニューアルオープンいたしました。

鹿島道路では『SFRCボンド補強工法』、『L・Lライン』を展示しています。



全国各地で技術フェアを開催しています

北日本支店



名 称 EE 東北'09
開催日 6月3日～4日
会 場 夢メッセみやぎ
展示物 SFRCボンド補強工法、
L・Lライン、グルーブラスト工法

関東支店



名 称 埼玉県建設資材県産品フェア
開催日 8月18日～20日
会 場 さいたま新都心けやきひろば
展示物 SFRCボンド補強工法、
ヒートスティック工法

北陸支店



名 称 けんせつフェア in 北陸 2009
開催日 10月21日～22日
会 場 新潟市産業振興センター
展示物 SKS工法、ヒートスティック工法、
KRSスポット

中部支店



名 称 建設技術フェア 2009in 中部
開催日 10月28日～29日
会 場 国土交通省中部技術事務所
展示物 SFRCボンド補強工法、L・Lライン、
エコベック、リペーブ排水性舗装

中四国支店



名 称 建設技術フォーラム・土研新技術
ショーケース 2009 in 広島
開催日 12月2日
会 場 広島YMCAホール
展示物 SFRCボンド補強工法、
グルーブラスト工法

九州支店



名 称 九州建設技術フォーラム 2009
開催日 10月14日
会 場 九州大学医学部百年講堂
展示物 SFRCボンド補強工法、
床版上面増厚工法

米海軍の安全認定表彰を受賞

昨年12月8日、米海軍佐世保基地において、九州支店長崎営業所がSTAR安全優秀賞を受賞しました。

同営業所の工事への取り組みが、米海軍の高い安全基準（STARプログラム）を満たしていると評価され今回の受賞となりました。



韓国標準協会が川崎アスコンを視察

韓国標準協会のグリーン経営部が日本最大級の規模を誇り優れた環境配慮設備をもつリサイクル施設「川崎アスコン」に注目し、昨年11月30日には同国の建設関連企業幹部22名が視察に訪れ、プラント設備から原材料に至るまで活発な意見交換を行いました。



「韓国標準協会」は、韓国産業規格であるKS認証規格（日本でいえばJIS規格）の取得審査を行う権威ある機関。

中四国支店が資源循環技術賞を受賞

昨年10月2日、クリーン・ジャパン・センターが主催する「09年度資源循環技術・システム表彰」において、中四国支店、広島工業大学他グループが会長賞を受賞しました。

受賞は、「廃ゴム乾留炭化物和ゴミ熔融スラグのポラスアスファルト舗装材への有効利用」に対するものであり、同日、技術概要の発表も行いました。



「資源循環技術・システム表彰」は1975年度にスタートした制度で、廃棄物の発生抑制や再使用、再資源化に資する優れた事業や取り組みを表彰し、環境事業の奨励、普及を図るのが目的。

ホームページで情報発信

今年4月にホームページ（<http://www.kajimaro.co.jp/>）を全面リニューアルしました。

ステークホルダーそれぞれの視点に立った、利用しやすいサイト設計としたのに加え、従来のワークフローを見直し、各部署がスピーディに情報を公開できるようにシステム化を図りました。



会社概要

社 名 鹿島道路株式会社 KAJIMAROAD CO.,LTD.
創 立 昭和33年(1958年)2月18日
資 本 金 40億円
本店所在地 東京都文京区後楽1-7-27
代 表 者 取締役社長 滝田 裕久
支 店 北日本支店、関東支店、東京支店、横浜支店、北陸支店、中部支店、関西支店、中四国支店、九州支店

関連事業

建築部

建築部は、1980年から流通・生産・事務・商業・福祉施設などの設計施工をトータルに引き受けられる体制を確立し、近年ではPFI事業やリサイクル施設の建設工事に参画するなど、お客さまから大きな信頼をいただけてきました。

また、分別管理により混合廃棄物を2006年度比5%削減することを目指した廃棄物発生抑制や、不要な電気の消灯や再生材など環境負荷の低いものを使用するグリーン調達を奨励してCO₂削減などに積極的に取り組んでいます。



EP事業部

EPとは、先端部に螺旋翼があり、所定の支持層に回転貫入させる当社開発の小口径鋼管杭エコロックパイルを指します。エコロックパイル工法は、低騒音・低振動である、建設副産物が全く発生しないなど環境にやさしい技術であることに加え、所定の技術研修を終了した資格をもつ技術者だけが施工管理を行う体制をとっているため、高品質であることが特徴です。今後も要求品質を確保し、お客さまの期待に応えられるよう努めていきたいと考えています。



- 低騒音・低振動で施工
- 建設副産物が全く発生しない工法
- 水やセメントミルクを使用しないので敷地周辺を汚しません。
- 小型の施工機械を使用するため、狭い敷地・狭い搬入路でも施工可能

K R O Co.,Ltd. (Kajima Road Overseas)

鹿島道路初の海外現地法人として、2005年にタイ・バンコクで、日本人3名と現地スタッフ数名でスタートし、現在は50人強の組織となりました。鹿島グループの一員として、バンコク市内環状道路から日系自動車産業関連施設の建設等の実績とともにお客さまの信頼も順調に積み重ねてきております。また、グループ内で情報を発信・共有し合い、2007年クーデター・2008年世界同時不況なども乗り越えることができました。今後も現地スタッフと共に頑張っ



CSRレポート発刊によせて



国連大学客員教授
NGO・NPO ArTech 理事長

河邊 隆也

親会社である鹿島建設株式会社自体しっかりとしたCSRレポートを発行しておられますが、鹿島道路株式会社も単独企業として十分といえるレポート内容となっています。すなわち、鹿島グループの1つとしてではなく、一企業市民として全てのCSRに直接配慮している事が良くわかります。

日本では、古来より「自分良し、相手良し、それに“世間良し”」と言われてきたように、全ての企業活動は、結果的には「世間良し」で終わることが望まれています。鹿島道路株式会社もいくつかの面でCSR活動が近隣社会から評価されているものがありますので、具体的な近隣からのフィードバックにも触れたレポートとすべきでしょう。しかも、その評価を分析し、どのような事が良かったのか、という具体的などころまで触れると、世の中への貢献が明確なレポートとなるでしょう。

本年11月には、ISO26000としてCSRの国際標準のガイドラインが公表されますが、現在の日本では何をしたらCSRになるのかということが明確ではないため、各企業とも試行錯誤中です。鹿島道路株式会社はいち早く「地域の環境教育」に取り組み、実績を出し、それを同業者に広めるなど、業界の中でもリーダー的役割を果たしています。

また、コンプライアンスの徹底はグループ全体との連携でシステム化に取り組み、内部統制・情報セキュリティシステムを立ち上げました。今後はシステムと実態が遊離しないよう、普段からの監視及びスパイラルアップに心がけていただきたいと思います。

社員の資質向上への取り組みは企業存続に大きなウエイトを占めます。現場の女性社員が生きがいを持って仕事に取り組んでいること等に成果が出てきていると感じました。

CSRでは、本業が即社会に貢献出来ていることが最も良いことと考えられていますが、鹿島道路株式会社が社会に一番貢献できることはなんといっても環境関連技術の開発です。本業での社会貢献が一番取り組み易く、効果も大きいと考えます。今まで紹介されてきたそれぞれの技術の更なる向上と新技術の登場に期待すると共に、国際的視野を持って、それらの普及を強力に推進していただきたいと思います。

第三者意見を受けて

河邊先生、貴重なご意見をありがとうございました。

今までは環境主体の「環境報告書」を発行してまいりましたが、今年から「CSR報告書」として内容を再検討し、事業全体の情報公開を目的としたこの報告書を発行いたしました。

先生からご指摘をいただいた「評価の分析」を徹底し、今後に繋げ、鹿島道路のCSRの質の向上に努めたいと思います。

また、本業による「世間よし」となる技術開発や、それを支える人材育成にも注力してまいりたいと存じます。



代表取締役副社長

石川 誠一

鹿島道路株式会社

〒112-8566 東京都文京区後楽 1-7-27
経営企画部 TEL 03-5802-8003

北日本支店	〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二日町 2-15 二日町鹿島ビル	TEL 022-216-8501
北海道営業所	〒006-0033 北海道札幌市手稲区稲穂3条 3-9-15	TEL 011-699-7744
関東支店	〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂 4-6-9 鹿島浦和ビル	TEL 048-872-8001
東京支店	〒112-8566 東京都文京区後楽 1-7-27	TEL 03-5802-8021
横浜支店	〒220-0001 神奈川県横浜市西区北軽井沢 63	TEL 045-312-8061
北陸支店	〒950-0986 新潟県新潟市中央区神道寺南 2-6-15	TEL 025-243-3851
中部支店	〒464-0850 愛知県名古屋市中千種区今池 3-16-12 三貴ビル 4F	TEL 052-744-3030
関西支店	〒540-0001 大阪府大阪市中央区城見 2-2-22 マルイト OBPビル 9F	TEL 06-6910-3701
中四国支店	〒730-0037 広島県広島市中区中町 6-13 鹿島建設ビル 2F	TEL 082-247-1851
四国営業所	〒761-8041 香川県高松市檀紙町 1241-1	TEL 087-885-5800
九州支店	〒812-8665 福岡県福岡市博多区博多駅前 3-12-10 鹿島建設ビル	TEL 092-451-4356



<ISO認証登録>

お客様のニーズを反映し、資源の有効利用・環境保護に配慮した、地球に優しい商品を提供します。



このCSR報告書は、再生紙を利用しております。